

りんご収穫までの流れ

りんご収穫までには、農家さんが手間暇をかけて、さまざまな作業を行っています。りんごを収穫するまでの1年間の作業の一部をご紹介します。

① せん定 (4月)



一年伸びた枝を切る作業。剪定が上手だとりんごは美味しくなる。品種によっても剪定方法が変わる。

② 摘花 (5月)



側花を摘み、中心花を残す作業。ひとつの花に与えられる養分を多くし、発育をよくする。

③ 摘果 (5月~8月)



側果を摘み、中心果を残す作業。大玉化や高品質化を図る。「あら摘果」、「仕上げ摘果」、「見直し摘果」の計3回行う。

④ 葉摘み (9月)



実にかかっている葉をちぎる作業。太陽光をあて、着色を促進させる。

⑤ 玉まわし (9月)



りんごを回す作業。太陽光のあたらない面に太陽光を当て、全体の色づきを統一する。

⑥ 収穫 (9月~11月)



収穫時期を迎えたりんごを丁寧に収穫。収穫時期の早い品種から収穫していく。

購入するには



茅野市内のりんご農家さんが育てたりんごは、JAの直売所で購入できます。北幸果樹園さんのりんごはりんご販売機でも購入できます。

今回紹介した作業の他にも1年を通して載せきれない細かな作業がたくさん行われています。

Interview



飯田果樹園
飯田 儀一さん ひろ子さん =上原=

昔はあたり一面、桑畑だった場所を養蚕の衰退に合わせて、私の父がりんご畑に切り替えてりんご栽培を始めました。現在は、ふじを中心に約10種類のりんごを2人で作っています。消毒などの大変な作業は、息子が休日に手伝ってくれるのでとても助かっています。

農協の直売に出して、完売した時や飯田果樹園の名前で買ってくれるお客さんがいた時、お客さんから美味しかったという返事があった時は嬉しく思います。

いいものを作ることを常に心がけて新しい品種の栽培にも挑戦していきます。

Interview



野口果樹園
野口 昂大さん =金沢=

野口果樹園は、私の祖父から始めて60~70年になります。

りんごは、1年に1回しか収穫できないので、1年の密度が濃い。どれだけ勉強して知識を深めたか、とことんこだわって作ることができたかが直接りんごに現れます。これは、難しいところですが、難しいから面白く魅力のあるところでもあると思います。

これからは、茅野市に若手のりんご農家を増やしていきたいと考えています。そのために、今年は里親制度※に登録して研修先を設ける予定です。これを機にりんご栽培が活気づいて茅野市と言えりんごと言われることを目指したいです。

Interview



北幸果樹園
北原 幸一さん =上原=

北幸果樹園は、私の祖父が初めてから約90年りんごを育てています。

りんごを作っている中で、りんごを食べた方たちから「美味しかった」と言ってもらえることが一番嬉しいですし、励みになっています。

今後も体力が続く限りはなるべく長くりんごを作っていきたいですが、後継者がいないことが悩ましい点です。

りんご栽培は、収穫までに手をかけてやっただけの結果が、秋になるとりんごに現れます。手を抜かずに育てて、りんごを楽しみに待っている皆さんにいいものをお届けしていきたいと思っています。



特集 ~こだわり抜いて育て上げる~ 茅野市のりんご

茅野市のりんご栽培

青森県に次いで全国2位のりんごの生産量を誇る長野県。長野県のリんご生産と言えは長野市や須坂市などの北信地域が挙げられますが、茅野市でもりんごの生産が行われています。茅野市でのりんご栽培は、まだメジャーではありませんが、茅野市はりんご栽培に適した気候で、高品質なりんごを収穫することができる場所です。将来的には、茅野市の特産品にもなれるような大きな可能性を秘めています。

今回の広報では、そんな大きな可能性を秘めたりんごを育てる茅野市のりんご農家さん取材し、茅野市におけるりんご栽培の現状や、りんご収穫までの1年間の作業、りんご農家の皆さんの思いなどをお聞きしました。

今回、取材した内容はビーナネットChinoの動画でも公開しています。

丁寧な作業が欠かせない

美味しいりんごを作るためには、1年を通じて、さまざまな作業が欠かせません。5ページに掲載した手作業による丁寧な作業から、霜への対策や消毒、草刈りなど多岐にわたります。「どの作業も重要でどれだけこだわることができたかが、秋の収穫に結果として現れる。」と農家の皆さんは語ります。私たちの元に届けられるりんごは農家の皆さんの努力の結晶でもあります。

茅野市のりんごの特徴

茅野市は標高が高く、冷涼で昼夜の寒暖差が大きい気候です。そのため、

色づきがよく、酸味と甘味のバランスが取れ、歯ごたえのある程よい固さの美味しいりんごを作ることができます。

北信地域などでは、温暖化の影響もあり、りんごが軟化したり、色づきにくくなってきた中、「茅野市はりんごを育てる上で最適な環境になってきている。」と農家の皆さんは感じています。

後継者・担い手の問題

茅野市のりんご農家の件数は少ない状況ですが、後継者・担い手が不足しています。りんご農家の皆さんは、「質のいいりんごが取れる茅野市で新たにりんご農家に就農される方が増えてほしい。」と期待を寄せていました。

ビーナネットChino



茅野市の冷涼な気候や寒暖差を生かし、りんご栽培が行われている。春先の芽吹きから大きなりんごを収穫するまでの道のりを追うことで、りんご農家の目指す「いいものをつくりたい」想いを収録

※里親制度…新規就農者の独立自営就農を支援するため、登録された農業者(里親)が技術を教え、また就農後の相談役としてサポートする制度。